

大船渡発

千石船がふるさと大船渡に入港

気仙船大工の技術により復元された千石船、「みちのく丸」が大船渡港にやってきました。鎮魂と復興の願いをこめて青森から航海してきたもので、25日、歓迎式典が行われました。「みちのく丸」は江戸時代に交易の主役として活躍した「千石船」を復元したもので、気仙地方の船大工グループ、「気仙船匠会」が8年前に建造しました。今回の千石船の運航は「復興へ帆を張ろう」をかけ声に、「東廻り航路文化交流」として企画されたもので、震災犠牲者の鎮魂を祈るとともに、未来に進む活力にしてみらおうと太平洋岸8つの港を巡ります。(7/25)



山田発

復興支援 漁船にペインティング

山田町に自社工場があるファッションアパレルメーカーが、漁業復興の支援を行おうと、山田町の漁港で漁船に直接イラストを描く、『ライブペインティング』を行いました。これは紳士服・婦人服メーカーの山陽商会在、ファッションを扱う企業にふさわしい支援を行おうと、アメリカ人アーティストのタイ・ウィリアムズ氏の協力を得て行われたものです。タイさんが手がけたのは山田湾・大沢漁港に停泊した養殖作業用の漁船「神明丸」。操舵室の両側に3色の油性ペンキを使って魚のイラストを描いていきました。(7/26)



陸前高田発

障害者にも暮らしやすい復興を

震災からの復興に向け障害者も暮らしやすい街づくりをアピールしようと、車いすで移動しながら行う要望活動が陸前高田市をスタート。29日は「奇跡の一本松」前で出発式が行われ、障害者9人とボランティア11人が震災犠牲者へ黙とうを捧げた後、砂利道を苦勞しながら車いすで移動し市役所に向かいました。市役所では戸羽太市長に要望書を提出。その後、意見交換が行われ「子育て中の母親や高齢者のためにもバリアフリーを訴えたい」といった意見が出されました。(7/29)



あこがれの職業への夢を

被災地の中高生が医療現場で職場体験

将来、医師や看護師等の医療現場で働く事を目指す沿岸被災地の生徒が、盛岡の病院で「職場体験」を行いました。これは被災地の生徒に、医療現場の職業に関する意識を高めてもらおうと盛岡赤十字病院が行ったものです。夏休みを利用して宮古・大船渡などの高校生・中学生合わせて63名人が参加しました。生徒達は、医師や看護師・薬剤師など、自分の希望する7つの分野に分れて職場体験に挑戦しました。(7/30)



復興の「起爆剤」として期待

「海洋エネルギー」拠点誘致へ

波の力を使った発電など「海洋エネルギー」拠点の誘致を目指す釜石市を先進地であるイギリス・スコットランドの関係者が視察しました。釜石を訪れたのはスコットランド・オークニー諸島の海で波力・潮力発電の実証実験を行なっている欧州海洋エネルギーセンター＝EMECのメンバーです。県と釜石市は国が今年度公募する海洋エネルギーの実証現場の誘致を目指していて、今回は世界の先進事例を学ぶ機会となりました。(7/31)



「IBC復興支援室だより」facebookでも発信中
詳細はIBC公式サイトから <http://www.ibc.co.jp/>
IBC復興支援室事務局 019-623-3122